

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年10月29日（金） NO22 文責 木下 文秋

## ある女性の話

彼女は中学時代から成績が優秀で、高校に進学しても部活動を続けながら文武両道で頑張る生徒でした。卒業後は、大学に進学し4年生になり就職をするにあたり、2つの企業から内定をもらいました。A社は全国的にも有名な企業で、その名前を聞けば誰でも知っている大手企業です。全国展開をしているので、東京や大阪などでの勤務があるかもしれません。B社はA社ほど大きな企業ではありませんが、宮崎の人なら大体聞いたことのある会社で、恐らく県内の部署に配置され、東京や大阪で働くことはありません。彼女は散々悩んだあげく、B社に入社することを決めました。しばらくたって、夏休み明けに彼女にばったり会いました。「元気にしてる？」と声をかけると、私に今の心境を語ってくれました。「B社に決めてとても後悔しています。A社は全国でも有名な会社でせっかく内定をもらったのに、どうして行かなかったんだろう。東京や大阪に配置されることは今思えば、とてもいい機会だったのに」とすごく悔やんでいたのです。「今の会社は楽しくないの？」と尋ねると「仕事は楽しい。でも、A社だったらもっと楽しかったかもしれないと思うと、残念でならない」と言うのです。いっそのこと辞めようかとも言っていました。私は、彼女に「たぶんA社に行っても、今頃どうしてB社にしなかったんだろうと思っているかも。今の会社がきっと、あなたを求めていたんだと思う。何事も一生懸命取り組むあなたが、悩みに悩みぬいて決めたことだから、間違いじゃなかったんだよ」立ち話ですがそんな会話をしました。物事を決断するときには誰でも迷います。私なんかはスーパーのレジでどっちに並ぶか迷って「失敗した。あっちのほうが早かった」なんて思うことがあります。他にも、食事の時、自分で注文しておきながら、隣の人が注文したメニューの方がうまそうに見えたりするものです。食事のメニューやスーパーのレジの話など、どうでもいいようなことから、彼女のように将来を大きく左右するような、大きなものまで様々な決断があります。進路も就職も最後は自分で決めることが大事です。そうしないとうまくいかなかった時必ず人のせいにしてしまいます。自分の事だから自分が責任持って決める。幸い彼女はB社の仕事が楽しくないとは言いませんでした。きっと頑張ってくれると思います。